

宇美川と私

平野 佑

福岡県には博多湾に注ぐ多々良川という2級河川があり、その2つある支流のひとつが私の生まれ育った福岡県志免町を流れる**宇美川**です。宇美川は、多々良川との合流点から水源のひとつである難所ヶ滝というところまでの距離が約17kmと短く、インターネットで検索してもあまり情報を得られないような小さな川です。



幼い頃、祖母に手を引かれて歩いた散歩道、小・中学校への通学路、そして友達の家に向かうときの通り道と、私の少年時代のあらゆる場面に宇美川は流れていました。通学途中には橋の上から見下ろして魚を探し、休みの日にはよく近所の友達と一緒に釣りに出かけたものでした。ウシガエルのオタマジャクシの巨大さや、それほど綺麗ではない川の魚が食べられないことなどを教えてくれたのもこの宇美川です。でも当時の私にとって宇美川は身近にあるあたりまえの存在であり、特別なありがたみを感じるようなものではありませんでした。すっかりふるさとから離れてしまった今は、そのありがたみがよく分かります。川の水も飲み水になるだけでは子供の心に何も残しません。実際にその川に流れる水と、そこに生きる生命との直接的なかかわりがあってこそ、子供の心にその川に対する特別な親しみと愛着が芽生えるのだと思います。そしてちょうど、親元を離れて初めて親のありがたみを知るように、今の私はこの宇美川に特別な想

いを抱かずにはられません。

添付した写真に写っている場所は私がもっともよく釣りをしに行ったところ
です。平常時の川幅は私が遊んでいた頃と今でさほど変わりません。細くて浅くて、お
世辞にも綺麗だとは言えないのですが、意外にもたくさんのフナが住み着いていて、彼
らは食パンをこねただけの安いエサに食いついてくれる良い遊び相手でした。しかし母
に聞いたところによると、私が小さかったころ、宇美川は今よりずっと汚れた川だった
そうです。川には橋から投げ捨てられたような自転車やビニールゴミ、空き缶などが散
見されるほどで、もし町民による川を清掃するためのボランティア活動がなかったなら、
私が宇美川で釣りをして少年期を過ごすことなどできなかったでしょう。人が関わって
しまった自然は、しっかり管理しなければ、人の日常の営みと心ない振る舞いによって
傷つくばかりなのかもしれません。

私が高校を卒業し就職のため地元を離れた平成15年の7月19日、福岡を凄まじ
い豪雨が襲いました。この豪雨は河川を氾濫させ福岡に重大な水害をもたらし、普段は
穏やかな宇美川もその例外ではありませんでした。志免町が発行している『ぎかいだよ
り しめ』によると、宇美川の決壊及び氾濫の結果、床上浸水190戸・床下浸水259戸と
いう甚大な被害が出たということです。そしてこの水害を受け、大規模な宇美川整備計
画が始まりました。私が釣りをして遊んだ場所も既に工事を終え、今ではすっかり見違
えるようです。川原に積み上げられていたテトラポッドや大きなコンクリートの塊は消
え、伸び放題になって荒れていた川原の茂みもなくなりました。砂浜も綺麗になり、コ
ンクリートの障害物に溜まっていたゴミもなくなりました。ちょっとした冒険のように
生い茂る草を掻き分け、足場の悪いテトラポッドを釣り道具片手に乗り越えていたころ
をすこし懐かしく思い出してしまいましたが、何はともあれ、この変化はたいへん喜ば
しいことです。

今回、こうして宇美川についてのエッセイを書く機会を得たことで、思いがけ

ず、興味深いニュースを見つけることができました。それは宇美川が合流する多々良川に関する、『クロツラヘラサギ：福岡・多々良川で安息の一時』と題された 2008 年 12 月 11 日の毎日新聞・西部夕刊の記事です。

(以下引用)

福岡市東区が多々良川に今冬も絶滅危惧(きぐ)種のクロツラヘラサギが姿を見せている。コウノトリ目トキ科の野鳥で体長約 75 センチ。全世界に約 1600 羽しかおらず、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 1A 類(ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種)に指定されている。日本には秋に飛来して越冬し、春に朝鮮半島や中国の繁殖地に旅立つ。

4 年前から「ふくおか湿地保全研究会」が多々良川と宇美川の合流点近くの中州に生えるアシを刈り、ねぐらとして整備したところ毎冬約 20 羽が利用するようになった。

(以上引用終わり)

まさか私が遊んだ宇美川の合流した先でこんなことが起きているとは思ってもありませんでした。また大規模な水害が色々なものを押し流したその翌年から希少種のクロツラヘラサギが姿を見せるようになったことにも、少しばかりのロマンを感じてしまいます。

もしかすると、福岡水害と呼ばれる平成 15 年のあの出来事は、私たちに自然がくれた再出発のチャンスなのかもしれません。環境問題のように個人の利害に実感を伴って直結しないことがらは、表面化しない限り、その改善・解決に向けた行動に繋がりにくいものがあります。あの水害がなかったら、いったいだれが宇美川の大規模な再整備を提案して、いったいだれがそれを支持したでしょうか。私を含め、宇美川に関わる人々はこの機会を大切にしなければなりません。私は宇美川が、何十年経っても、近所に住む子供たちがあたりまえのように釣りをしたりして遊ぶ川であってほしい。そしていつか私に子供ができたなら、決して大きくなくそれほど綺麗でもない懐かしの宇美川に、何の珍しさもない旧友のフナを、子供を連れて釣りに行きたいと思います。

<参考資料>

宇美町役場観光ガイド

ぎかいだより しめ 第36号 17年2月1日 発行

毎日新聞 西部夕刊 2008年12月11日